

指導医に聴く

「私が研修医だった頃」

第4回 関門医療センター臨床研修部長
村上知之先生

とき 平成30年4月4日(水)

ところ 関門医療センター

[聞き手：広報委員 石田 健]



石田委員 平成29年度から始めましたコーナー「指導医に聴く『私が研修医だった頃』」の第4回目として、関門医療センターで臨床研修部長をされている村上知之先生にお話を伺いたと思います。本日はご多忙のところ、インタビューの時間をいただきまして誠にありがとうございます。

先生は北九州市出身で山口大学医学部を昭和59年に卒業し、同学部の2病理に入局されました。昭和61年に助手となり、平成4年に学位を、平成5年に病理専門医資格を取得し、講師となりました。平成6年から7年にかけて米国ニューヨーク医科大学癌研究所に留学され、細胞増殖や細胞死の研究に勤しまれたとのこと、平成11年に国立山陽病院（現在のNHO山口宇部医療センター）の臨床研究部室長になられました。平成18年からNHO関門医療センターの病理診断科医長になられ、山口宇部医療センター室長を併任し、現在に至っておられます。なお、平成27年から関門医療センターの研修部長も併任しておられます。

先生は病理専門医を持たれていますが、新専門医制度に関しては、いかがですか。

村上先生 評価しています。特に病理専門医制度については、他分野の新専門医制度では関係者の

間で評価が分かれているのは承知していますが。そもそも、日本で最も早く専門医制度の始まったのが病理です。専門医育成は病理学会が従来から力を入れてきたので、新制度への移行はスムーズでした。しかも、新制度は従来に比べ、より多くの知識と経験を効率的に習得・指導できるように考案されています。それは大学内の複数の病理部門と市中病院との密接な連携によるものです。また、専攻医の生活やキャリアメイキングにも十分に配慮がなされている。私は山口県の病理専門研修プログラムの作成に関わりましたのでよくわかります。自画自賛になりますが、とても良いものができました。今の専攻医がうらやましい。実際に山口県で病理医を目指す医師が少しずつ増えています。

石田委員 関門医療センターは臨床研修医（初期研修医）の多い病院ですね。新専門医制度が始まってから、初期研修医の動向やプログラムの内容は変わりましたか。

村上先生 今のところ、大きな変化はありません。但し、山口大学出身者が増えたのは新専門医制度と関係しているかもしれません。

また、プログラム自体は変わりませんが、彼らの専門医取得を見据えて、初期研修での症例管理

(いわゆる、研修医と症例との紐付け)をきちんとするよう、院内体制を整えました。特に内科の新専門医制度では、初期研修時に経験した症例の登録が可能となりましたので、一つの症例を複数の初期研修医や専攻医が競合しないよう、調整しなくてはなりません。

石田委員 先生は登山家としても有名です。山口県山岳連盟の登山隊長としてマッキンリー山に登頂されました。今でも研修医を引き連れて、雪山に行かれていますと聞いています。登山に関するお話を聞かせていただけませんか。

村上先生 私は山が好きというよりも、困難な山に登ろうとする行為が好きなのです。自分で計画し、情報を収集し、装備をそろえ、体力や技術を磨き、ルートを探り、さまざまな判断を行い、ミスを修正し、登頂し、そして死なずに降りてくる。しかも、医師、社会人として後ろ指をさされない。その全過程が終了したとき、何とも言えない充実感が味わえるのです。

もちろん、山や自然の風景、温かいテントや食事、仲間との友情がその行為に花を添えてくれます。医学研究や医療行為と通じるものがありますね。

登山家に研究者や医師が多いのもそのためでしょう。研修医とも時々、一緒に登山を楽しんでいます。

石田委員 次に地域医療についてお聞かせ願えますか。今、下関市では四大病院を二大急性期病院とする統合案が検討され始めています。厚労省、JCHO、下関市、済生会本部、さらに市内の四病院との話し合いはどうなっていますか。下関市の人口減少や少子高齢化が進み、このままでは病院経営が困難になることが予想されます。

村上先生 いわゆる「地域医療構想」の下関医療圏での進捗状況ですね。これについては私も詳しくは知りません。「地域医療構想調整会議」が協議を続けているとのこと。当院の林 院長や佐藤副院長もこの会議のメンバーとして協議に参

加しております。今のところ、どの病院が統合するのか、などの具体的なことは何も決定していない、と院長からは聞いています。今年度初めに院長から当院職員に向けて「いろいろな噂に惑わされることなく、日常の診療・病院運営に励むように」との言葉がありました。

個人的には、病院、大学、自治体の関係者が高い見地に立って諸課題を解決し、市民にとって最良の体制を整えてほしいと思います。その際、コメディカルの皆さんの職場確保は大切な問題だと思います。

石田委員 最後に研修医へのメッセージをお願いします。

村上先生 クリエイティブなキャリアメイキングをしてほしいと思います。今の研修医は昔に比べてキャリアアップのためのより明確なプログラムが用意されており、研修環境も恵まれています。これは大変良いことです。しかし、設定されたプログラムや資格を取得してゆくだけではキャリアメイキングとは言えません。キャリアセレクトィングです。どの道を選ぶかを繰り返すのではなく、どこかであらたな道を開拓してほしい。そのためには自分ならではの医師像を思い描き、その実現に向けて独自の工夫と努力を続けてほしいと思います。自分の専門科に励むことはもちろん、医療・医学にかかわらず、さまざまな分野や人に興味を持ち、関わることを勧めます。研修医は若い。高い独立峰となるために、教養という裾野をまだまだ広げる時期だと思います。きっとそれは楽しいことでもあると思います。

石田委員 本日は大変貴重なお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。登山の話など専門家しか言えないことも聞かせてもらい、楽しくお話を聞くことができました。先生の今後のご活躍を祈念しましてインタビューを終わらせていただきます。